

聴覚障害児の新しい学びの扉を開く

(自立活動の取組を通して)
～ iPadを生きる力に～



高知県立高知ろう学校 松下 幹

概要

- 1 障害について
- 2 児童の実態①～③
- 3 自立活動について
- 4 取組の実際①～③
- 5 成果と課題
- 6 今後の方向

障害について

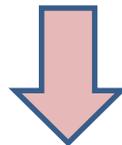
聴覚障害

音声や環境音等の聴覚情報の入力が不十分

日本語習得の困難・コミュニケーションのズレ

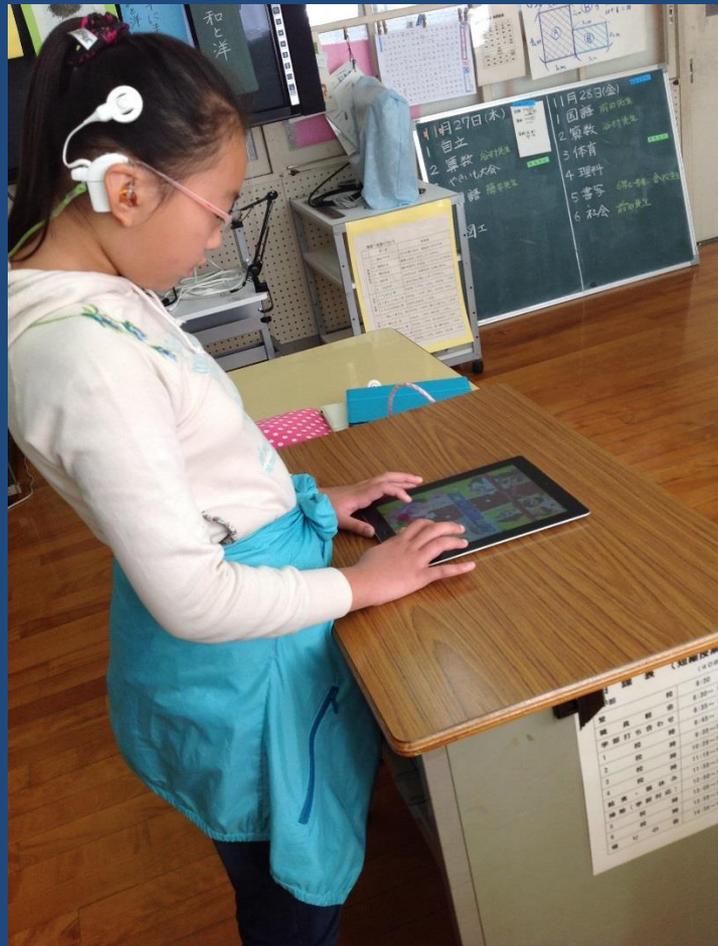


多様な工夫が必要



iPadの活用

高知県立高知ろう学校 小学部 4年



対象児童の実態－① 聴覚活用

右 耳

聴カレベル

35～55 dBHL

人工内耳手術： 3年2学期

- ・ 人工内耳活用不十分
環境音や音声の認知学習

4月段階

環境音や言葉の認知
音に違和感
装用を好まない

左 耳

聴カレベル

25～35 dBHL

人工内耳手術： 2年

- ・ 人工内耳の活用は向上

4月段階

複数での会話は、手掛かりが必要情報の共有ができにくい

情報保障：Roger

対象児童の実態－② 発音

母音の安定

4月段階

母音口形が曖昧

- ・ 母音が /e/ 口形
- ・ /u/, /o/ の口唇の動きが不十分
- ・ 「誤音」産生意識 弱

音器運動

4月段階

舌尖の動きが不十分

- ・ 舌の挙上、前後の動き
- ・ 発音の明瞭度低下
- ・ 「誤音」産生意識 弱

対象児童の実態－③心情

①実態(コメントから)

設問：「あなたは、自分がダメな人間だと思うことがありますか？」

返答：「何か言われた時や、失敗すると怒ってしまうんだよね。

思いのズレ

理由は「ひみつ」

本当は、いけないことなんだよね。でも、いつも怒ってしまったり、人の話を聞かない時もあるから……。

情報のズレ

それはだめ。最近は、よくないんだよね……。」

自立活動の指導の振り返り

①「失敗」の受容（教師）

「聞き取りの失敗？」

失敗⇒「悪いこと」 意欲・達成感・自信 ↓

「発音の失敗？」

失敗⇒「悪いこと」 意欲・達成感・自信 ↓

②指導形態及び内容

- ・ 指導時間の制約
- ・ 指導する内容過多

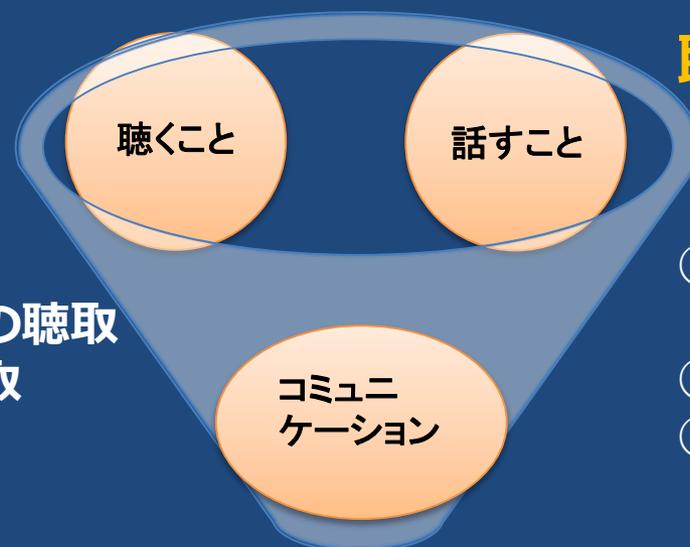
③指導形態及び内容の改善

- ※ **自ら学習の内容を選択** → **自発性**
- ※ **障害による困難を補完** → **情報**

自立活動の内容

聴覚学習を通じた 日本語の習得

- ①人工内耳の活用促進
- ②音声、環境音、音楽等の聴取
- ③単語、短文、長文の聴取
- ④聴力、人工内耳の理解



聴覚学習を通じた 話し言葉の向上

- ①音器の活用
(息、声、舌、口唇等)
- ②単音(母音、子音)発音
- ③語句、文章、会話

コミュニケーション

コミュニケーション (態度) (受容) (表出)
言語 (理解) (表出)
障害理解 自己肯定観

iPadを活用した自立活動

自立活動の取組の方向

教師主導



子ども主導の学びへ

いつでも・どこでも・簡単に

指導の方向

iPadを活用した授業

児童：興味・関心のあるアプリの選択⇒聴覚学習
⇒楽しみながら「考える」「分かる」⇒達成感⇒自信

児童：興味・関心のあるアプリの選択⇒発音の学習
⇒自分の発音に向き合う⇒楽しみながら「考える」
⇒自己評価⇒達成感⇒自信

児童：日々の学習の継続 情報不足を補う手段を身に付ける
⇒「伝わる」・「分かる」「考える」・「伝える」
⇒「自分から」⇒前向きな気持ち⇒達成感⇒自信

取組-① <聴く> 初期



◆選択

アプリの絵のかわいさと動物の鳴き声でアプリを選択

◆活用

右：音量設定 不安定 左：適切に音量設定

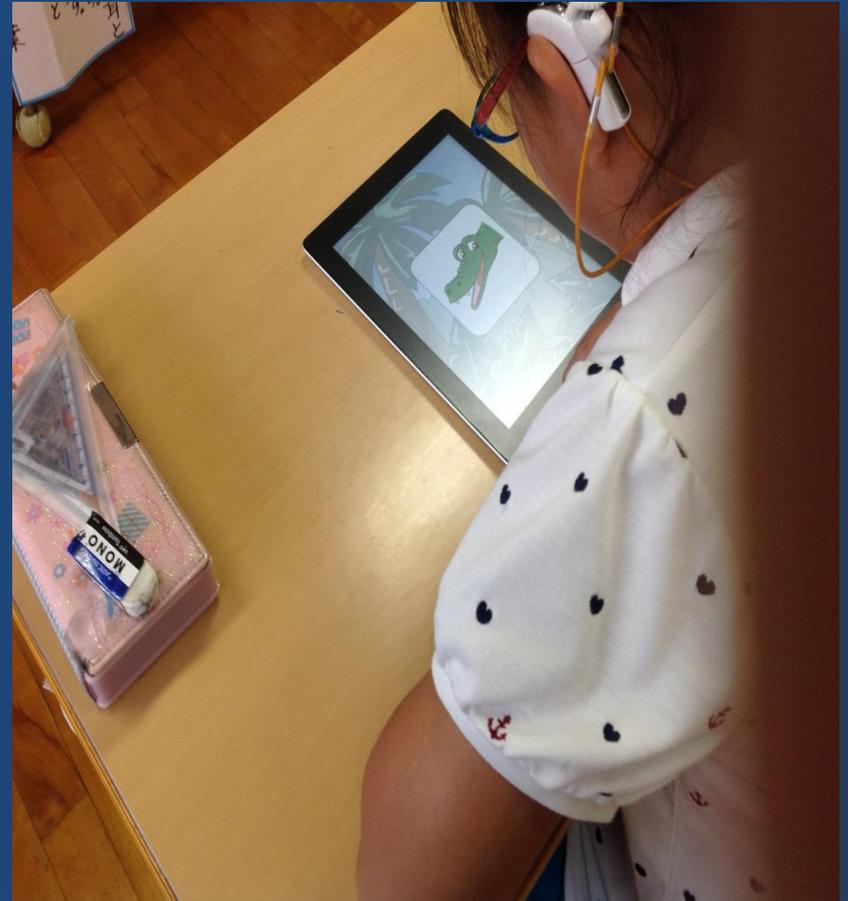
◆態度

自分だけのiPad ⇒嬉しい
動物の声を機械音として把握

取組-〈聴く〉 4月



iPadを初めて使った日



動物の鳴き声アプリを体験

取組-〈聴く〉 中期



◆選択

あらすじのある話を選択

◆活用

話の聞き取りと文字を併用し内容を把握

◆態度

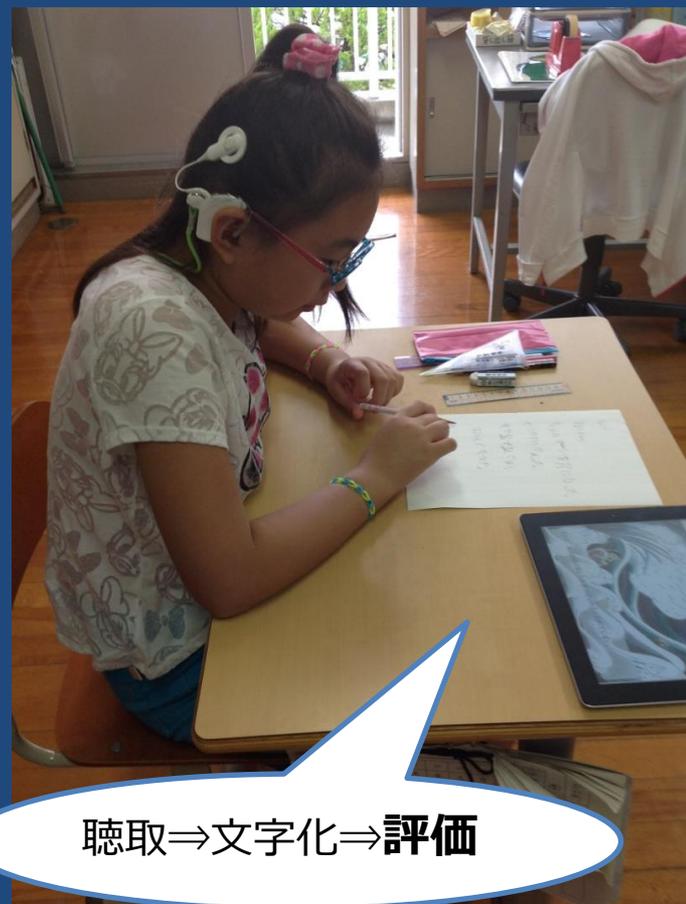
音や、音声を意味のあるものとして認知⇒「分かる」自信
聴き取りが楽しくなる 笑顔が多くなる
聴くことを楽しむ工夫

取組-〈聴く〉 7月



自分でボリューム調整、読み上げ絵本で色々な工夫

取組-〈聴く〉 7月



自分でメモ用紙を準備、聞き取った内容を文字表記し、下段の文章と比較

取組-〈聴く〉後期



◆選択

会話を記憶、思考し、設問に答える内容を選択

◆活用

聞き返しの効果

会話で、使われていた言葉が、日常の生活場面で一般化

◆態度 **iPadの効果を実感**

音や、音声を意味のあるものとして認知⇒「分かる」自信

集中して音声を聴く

右の人工内耳の活用が進む⇒ 両耳装用の効果を実感

取組-〈聴く〉 9月



日常会話文を聞き、質問に答えるアプリを好んで聴く 語の記憶スパンが長くなる

取組- <聴く> 12月



苦手な協応運動に挑戦 楽しいリズム学習になる

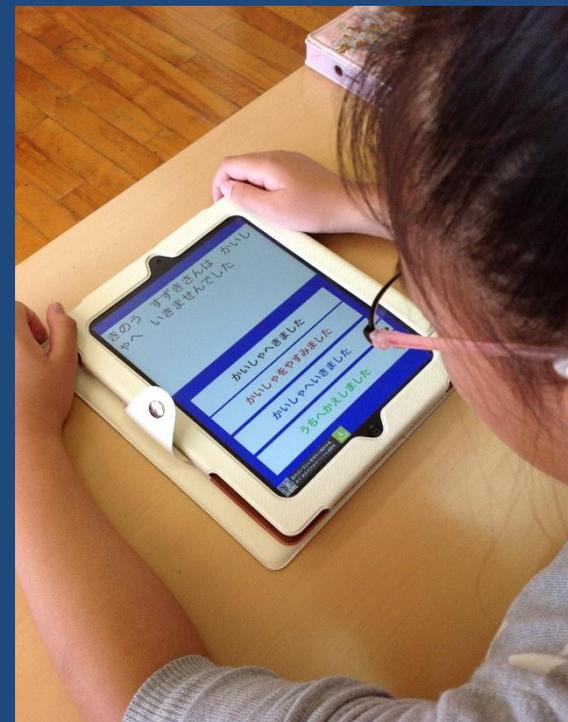
取組- <聴く> 12月



騒音計で、声の高低調節・
聞き分け・発音の学習

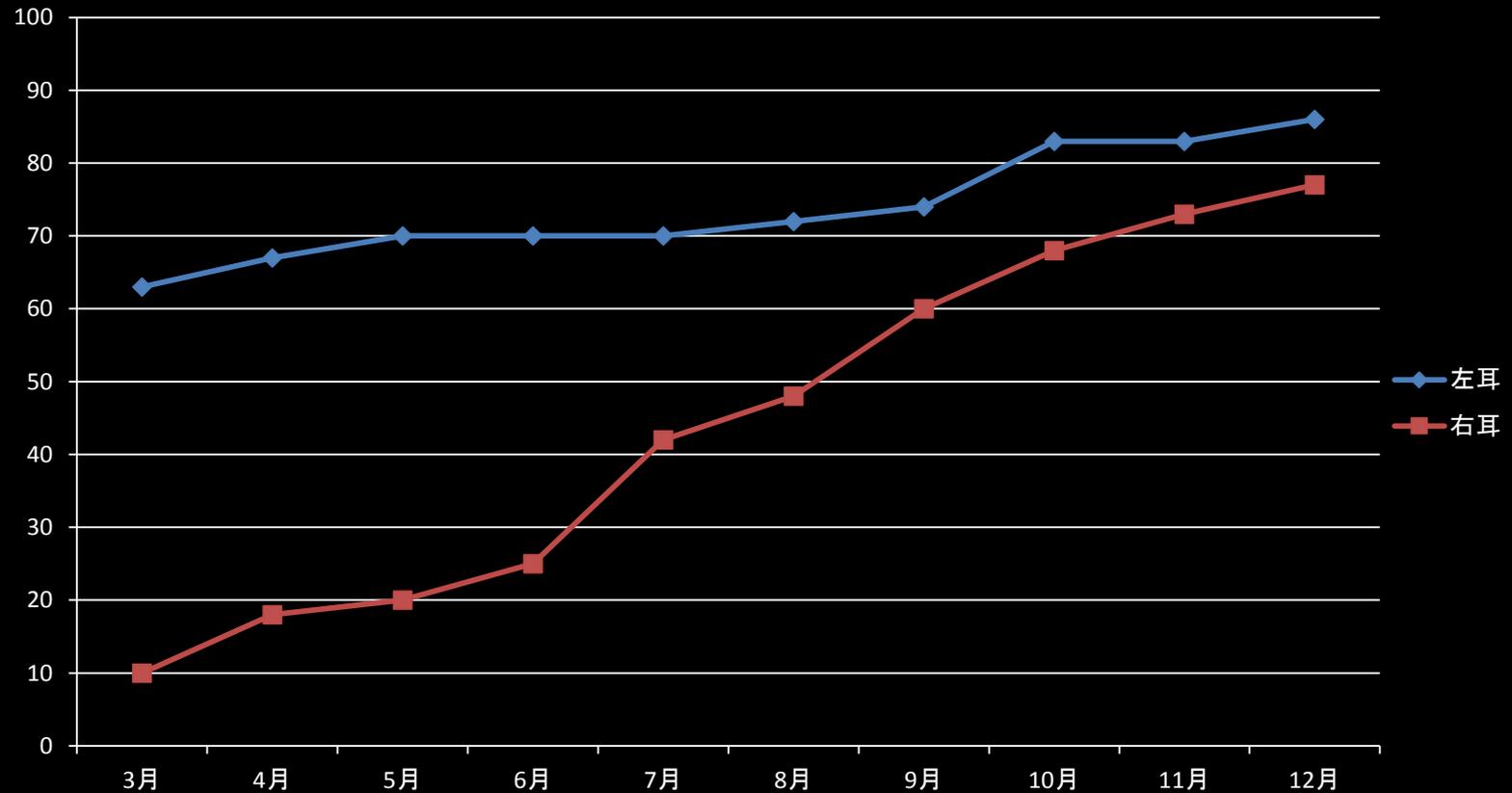


カバーで文字を隠し
てお話に聞き入る



日本語アプリで、言葉の
活用を学習

聴き取り向上 3月～12月



67-S語表 第1表 音源(CD)

取組-② <話す> 初期



◆選択

音声に反応、母音の発音を選択

◆活用

視覚的にターゲットとなる音に挑戦

◆態度

色々な声を発声して音器運動するが、口形への関心 低

取組-〈話す〉 5月



母音の発音を客観的に評価、四苦八苦しながら正しい音の出し方を工夫

取組-〈話す〉 6月

「五十音」 行読み



母音・/ら/の組み合わせ



濁音練習 単音で、自分の自信のある音と苦手な音を組み合わせせて練習

取組-② <話す> 中期



◆選択

母音の発音、声の調整、物語を選択

◆活用

教室にある鏡とiPadを組み合わせて活用

◆態度

楽しいものではないが、進んで挑戦⇒ 「くやしさ」⇒ さらに挑戦
自己評価ができはじめた⇒ 「やればできる」ことを実感
口形認識

取組-〈話す〉 7月

「どれにしようかな」



好きな「お話」
スピードに合わせ音読



自分で好きなアプリを選択し、聴き取った後に同時読み ~朝の楽しみな時間~

取組-② <話す> 後期



◆選択

発音、声の調整、物語、**歌**を選択

◆活用

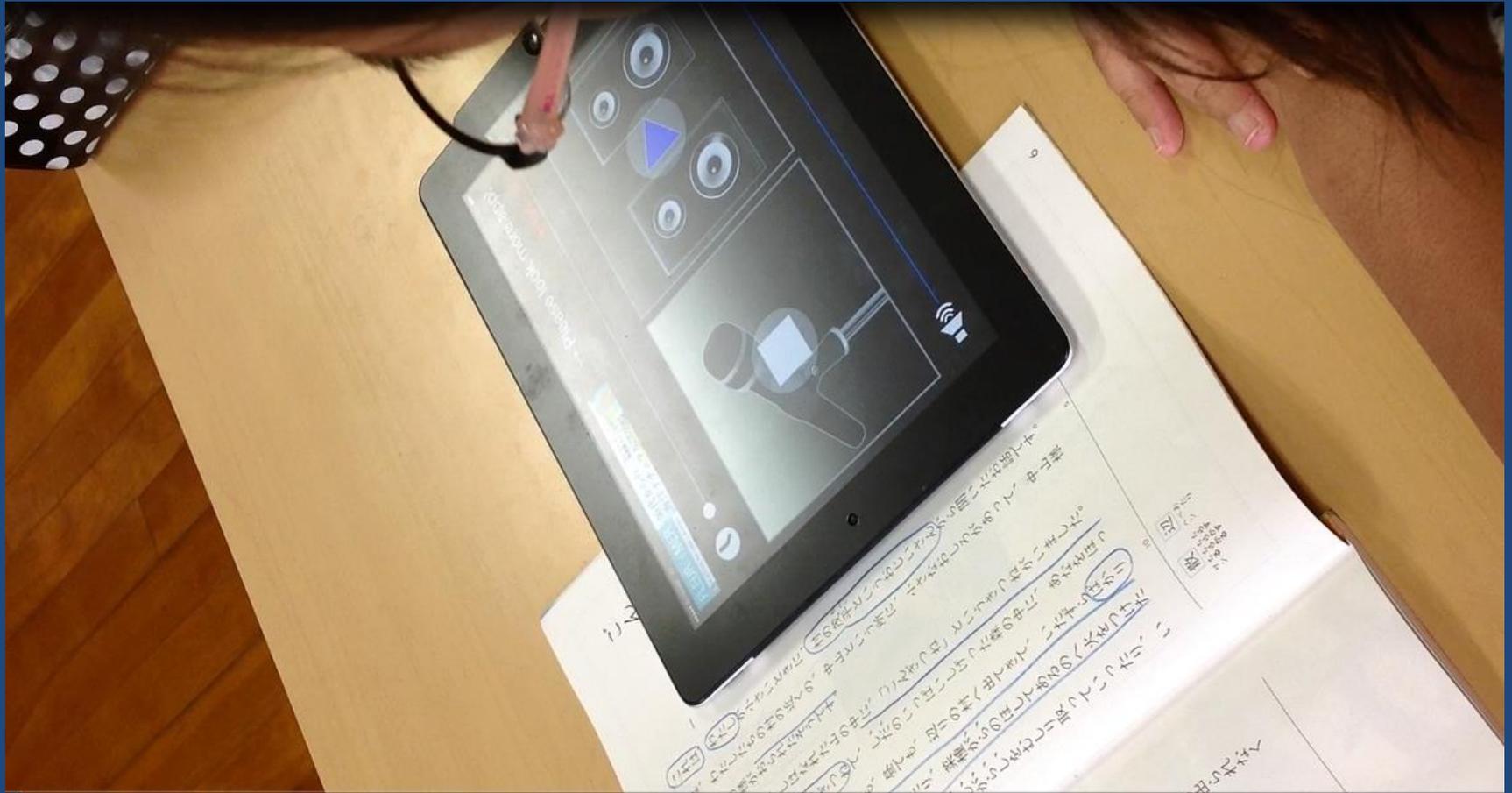
国語の教科書とiPadの組み合わせ
「聴くこと」と「話すこと」の組み合わせ

◆態度

自己評価ができはじめた⇒ 「やればできる」ことを実感

自分でアプリを検索して自己評価 誤音の認識

取組-〈話す〉 12月



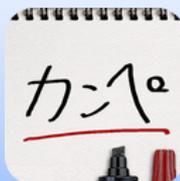
国語の教科書「ごんぎつね」を音読して聞き返す

取組-〈話す〉 12月



会話の部分で、聴覚障害には、困難とされる「抑揚」が出始めた

取組-③ <伝わる・分かる・考える> 事前



PP メモ

交流及び共同学習

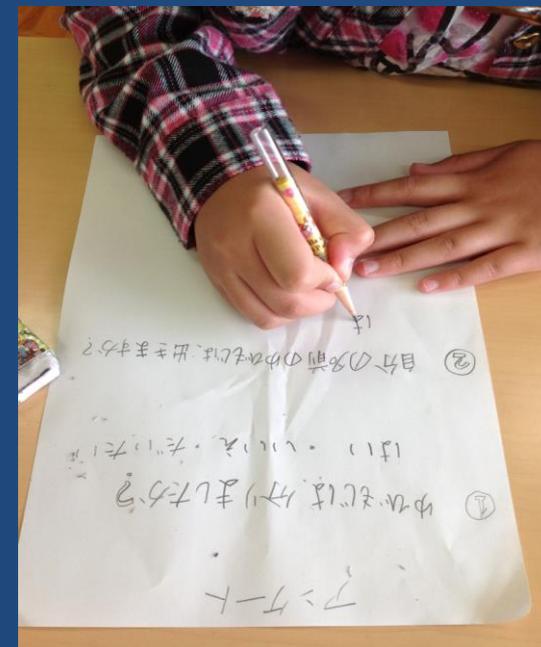
「私の伝えたいこと」

- ・ メモ機能活用
- ・ カテゴリー分け

「自分の障害に向き合う」

- ・ 私の話し方は伝わるかな
- ・ みんなの話は、分かるかな
- ・ みんなと話ができるかな

取組- <伝わる・分かる・考える> 6月

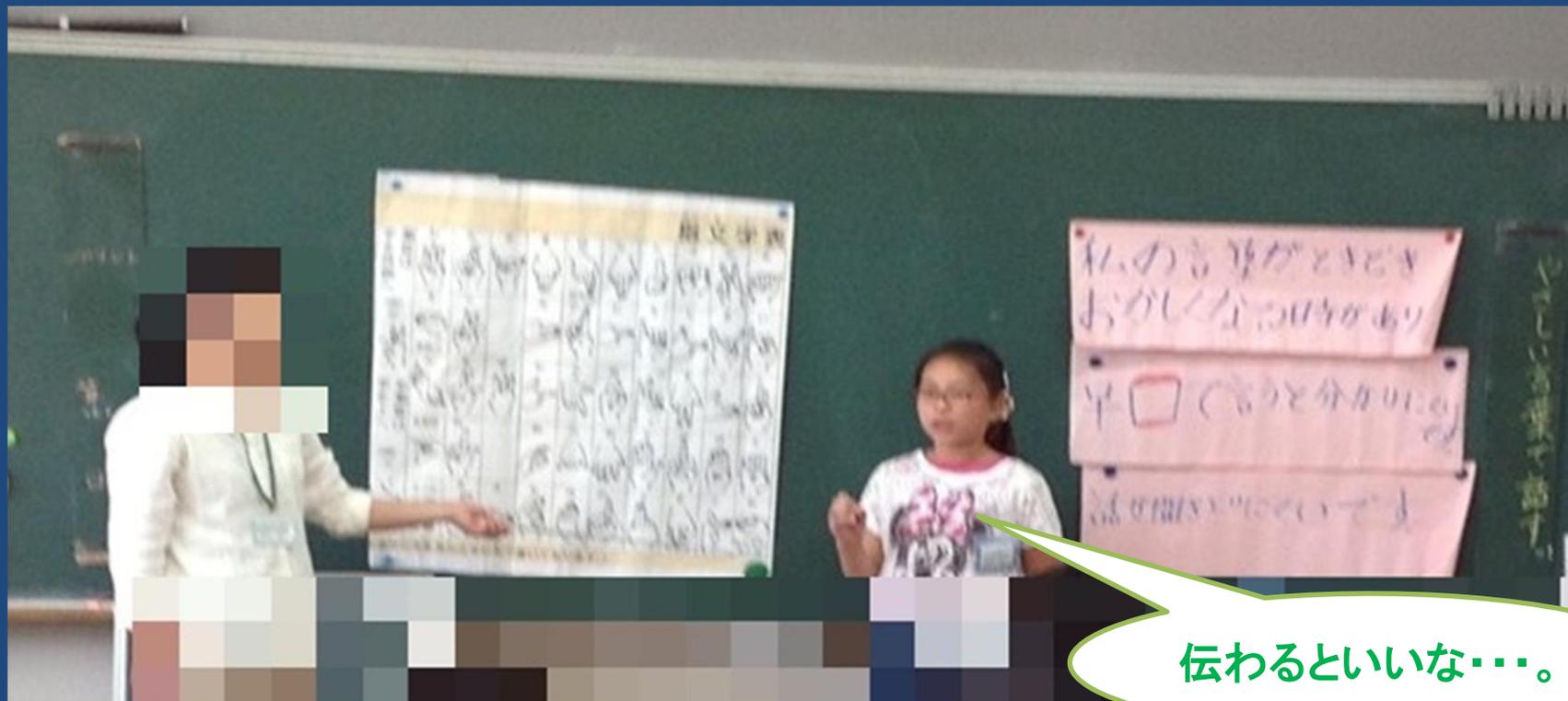


「私の伝えたいこと」

言葉の使い方や相手の受け取り方を意識した伝え方を自力で作成

アンケート作成

取組-〈伝わる・分かる・考える〉 6月



交流学习 45分間「私の伝えたいこと」「指文字の先生」

取組-〈伝わる・分かる・考える〉 6月



「今のクイズわかるかな」 答えが分かった友達のところへ・・・。

アンケート結果

<質問> ← **心配事**

「私の話し方は、わかりましたか？」

<回答> ← **一安心**

「分かりました。」

「話し方が分かりやすかったです。」

<コメント抜粋>

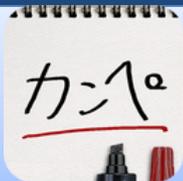
- Nさんの教え方が、とても上手だったので、指文字を早く覚えられました。
- お話がわかったよ。楽しかった。また遊ぼう。今度来るのはいつ。
- 一緒に次の時間も勉強しよう。

取組-〈伝わる・分かる・考える〉 11月



難聴理解かるたゲーム 発言している児童にまんべんなく視線移動できる

取組-③ <伝わる・分かる・考える> 事後



PP メモ

黒板前にiPad

- ・ 私の伝えたいこと
- ・ 伝言ゲームの展開 「カンペ」
- ・ 友達に伝える 「書いて」

私の話し方は**伝わった**

みんなの話が**分かった**

みんなと話が**できた**

- ・ 日々の学習の積み重ねが自信となる
- ・ iPadを場面に合わせて活用
- ・ コミュニケーションの不安が解消

成果<伝わる>コミュニケーション

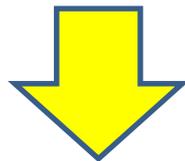
1対1、1対2~3  受容表出 ⇒ コミュニケーション成立

1対多  表出 ⇒ コミュニケーション成立

 受容 ⇒ 部分的な理解
コミュニケーション不成立



iPadの活用
【自分で考える⇒選択する】



自発的な学習
【状況や場面に対応できる力】

双方向のコミュニケーション成立

成 果 <聴く・話す・考える>

iPad活用以前

正否の評価は教師

iPad活用後

児童自身の自己評価

「なぜ？」

「どうして？」

「どうする」発展的な学習態度



- ・自分が選ぶ
- ・自分で挑戦、失敗にも挑戦
- ・成功体験⇒達成感⇒自信

課題

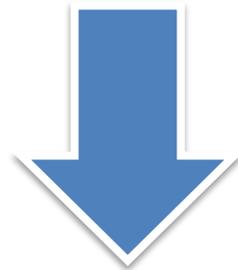
交流及び共同学習場面での情報保障の充実と共有



- IPトーク、ボイスレコーダ等による文字情報の支援
(複数の会話時の支援)
- カンペやメモ等を活用した情報の共有
- iPadの会議メモを活用した授業の振り返り

今後の方向

聞く力 話す力 伝える力



双方向のコミュニケーション成立

自分らしく生きていく

iPadを聴覚情報を補う手段として活用